

令和4年度 長浜市DX実証実験プロジェクト事業

実績等報告関連資料

【事業の目的】

本市をフィールドにデジタル関連
の技術やサービスを活用した
実証実験を実施

※市は実証実験の取組に対するサポートや
補助金交付などの支援を行う※

DX

デジタル・トランスフォーメーション

地域課題の解決
市民生活の質の向上

【スケジュール】

令和4年3～4月 実証実験プロジェクト募集
(公募型プロポーザル)
5月 実証実験プロジェクトの採択
(応募提案数19件 ⇒ 3件)
6月 キックオフ会議

6月～令和5年3月 実証実験の実施
(進捗報告等含む)
実績報告

長浜モードで観光DX! 長浜市の新たな魅力に出会える!! DX実証実験プロジェクト

プロジェクト実施者：[J MaaS株式会社](#)（東京都新宿区）

市担当部署：文化観光課

デジタル技術を活用した新しい働き方 創出プロジェクト

プロジェクト実施者：[合同会社LOCO](#)（滋賀県長浜市）

市担当部署：人権施策推進課

災害情報共有システムを活用した被害情報収集業務のデジタル化

プロジェクト実施者：[株式会社ドーン](#)（兵庫県神戸市）

市担当部署：防災危機管理課

概要

経路検索アプリ「ジョルダン乗換案内」に、地域に特化した「エリアモード」を長浜市専用開発（長浜市モード）し、市の観光・移動の情報を一元化することで、周遊観光の促進と充実を目指す。
 エリアモード（長浜市モード）は、MaaSサービスのアプリとして、長浜市までの移動に加え、市内（地域内）の移動を1つのアプリでカバーする。さらに、観光スポット情報とルート案内をセットにすることで、目的の発見から移動までをワンストップで実現し、周遊観光促進に役立てていく。
 また、検索ログや移動データを検証・分析し、来訪者の満足度を高めるコンテンツづくりにつなげる。

実証方法

① 長浜モードの開発実装

長浜モードに観光に役立つ地域の情報と移動を一元化



② GPSの位置情報を活用した通知の実施（ジオフェンス）

長浜駅・米原駅を、それぞれ囲むようにジオフェンスを設定。電車での来訪者をメインに長浜モード利用の通知を実施。離れた場所にいるユーザーに対しても、長浜への観光と、長浜モード利用の促進となるよう、関連のある彦根城・大阪城にも設定。



③ スポットを選定しMAPに掲載タップのみで

ダイレクトに経路検索を実施

数多くある観光スポットから、紅葉シーズンに訪れる一般客向け（主に20～40代をイメージ）にウケの良さそうなスポットを選定し掲載。直感的に目的地を選択し、キーワード検索不要で移動方法までをワンストップで提供する仕組みとした。

掲載スポット：93件 (全て多言語化)

- ※カテゴリ毎の件数
 - ・飲食：12件
 - ・観光：45件
 - ・おみやげ：22件
 - ・体験：4件
 - ・施設：9件

マルチモーダル検索

徒歩ルート表示

ピンをタップすると詳細が表示される

④ デジタルスタンプラリーとARコンテンツで周遊のきっかけを提供

市内を周遊するきっかけづくりとして、GPSの位置情報を利用したデジタルスタンプラリーを実施。また、AR道標を利用した街歩きコンテンツも提供。

掲載スポット：8件

- ① 秀吉・三成出逢いの像
- ② 大通寺
- ③ 長浜城歴史博物館
- ④ 豊国神社
- ⑤ 黒壁スクエア
- ⑥ 竹生島
- ⑦ 賤ヶ岳リフト
- ⑧ 小谷城戦国歴史資料館

スタンプ獲得ランキング

- 1位(25pv)：長浜城歴史博物館
- 2位(18pv)：秀吉・三成出逢いの像
- 3位(10pv)：黒壁スクエア
- 4位(5pv)：竹生島
- 5位(3pv)：大通寺
- 5位(3pv)：小谷城戦国歴史資料館
- 5位(3pv)：豊国神社
- 6位(2pv)：賤ヶ岳リフト

ARを活用した街歩きと、道案内可能なサイクリングコース

長浜のディープな楽しみ方を提案する、2つの街歩きコースとサイクリングコースに、ARと位置情報を組み合わせ提供。

掲載コース：2コース

- ① まちのツボ (長浜入門編) → スポット数：11ヶ所
- ② 発祥のまち (木之本散策) → スポット数：9ヶ所

掲載コース：2コース

- ① コース1 (長浜駅～高月駅) → スポット数：11ヶ所
- ② コース2 (木ノ本駅～余呉湖) → スポット数：9ヶ所

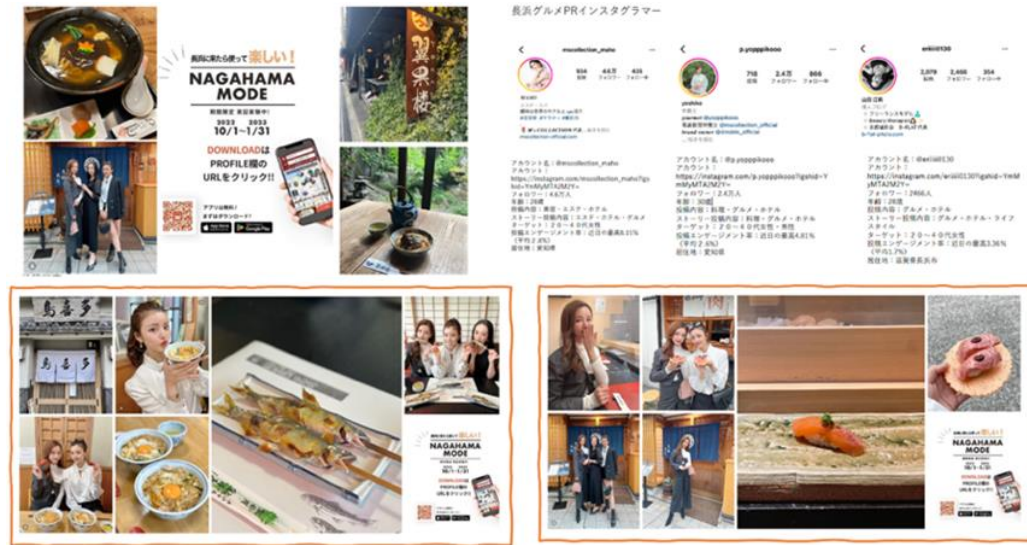
⑤ 乗換案内アプリにてバナーを設置し、ユーザーに訴求

乗換案内アプリユーザーに向けた訴求として、アプリ内の2ヶ所にバナーを設置。アプリ起動時にランダムに表示されるTOPのバナーと、特定の駅を指定した場合に表示されるバナーで、さまざまな層のユーザーに対して周知を行った。



⑥ インフルエンサーによるSNS訴求・告知用Instagramの運用

新規の観光客獲得のための取り組みとして、3名のインフルエンサーの方に「長浜グルメ」をテーマに投稿を企画。「絶対食べたい長浜グルメ」として、長浜のご当地グルメを集約したLPで情報を発信。



▼インフルエンサーによるSNS訴求の結果

投稿の保存数が比較的多いことから、少なからず「長浜に行ったら行ってみたい」と感じたユーザーが多数と想定。3名とも、主にグルメやホテルの紹介をメインに発信しているため、旅行の参考にする目的で保存したといえる。

⑦ 観光・宿泊施設にチラシやポスターを設置

街なかや宿泊施設でのタッチポイントとして、紙媒体を利用。
 チラシ・ポスター・三角POPを掲載店舗や駅など、観光客が立ち寄る場所を中心に設置を行った。

▼チラシ



▼ポスター



▼三角POP



達成目標と目標に対する結果

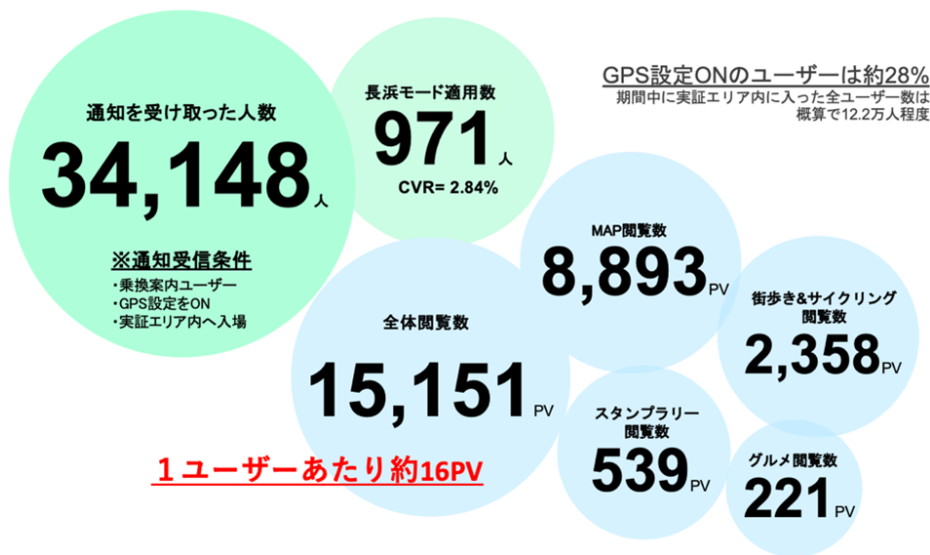
本実証における目標

乗換案内アプリ内に開発する「長浜モード(エリアモード)」に、長浜市内の観光と交通の情報を一元化し、周遊観光の促進と滞在時間の増加を目指す。便利に楽しく充実した観光となる機能やサービスを実装し、周遊に於ける課題の解決と周遊観光促進への効果検証を行う。また、関西エリアからの誘客や、長浜モードの利用につながるPR施策を実施、検証する。

- 公共交通などを利用した、市内の周遊観光促進、滞在時間の増加
- 近県からの誘客と、長浜モードを利用した市内の周遊観光促進につながるプロモーション
- 次年度以降の取組みにつながる検証と分析

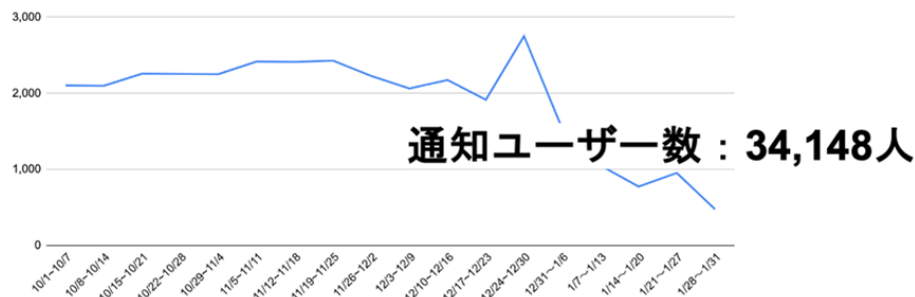
結果

長浜モード全体の計数(2022.10.1~1.31)



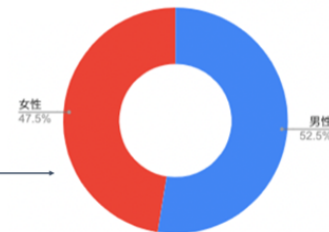
長浜モード通知数 / モード適用総数・男女比 (2022.10/1~1/31)

通知(ジオフェンス)を受け取ったユーザーに対し、モード適用総数(両OS) = CVR: 2.84%とCVRは高い(他エリア比較)



実証期間合計 **971**人

男性: 52.5% (約510人)
女性: 47.5% (約461人)

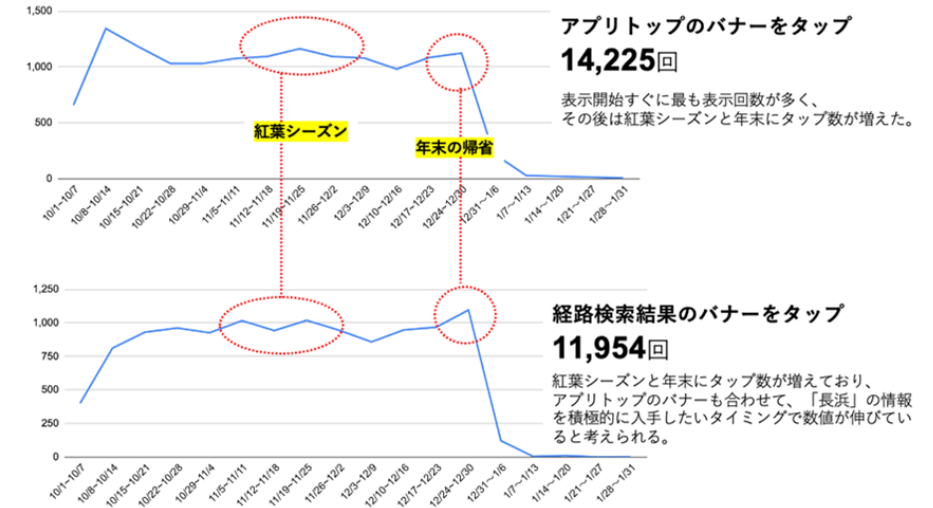


長浜モード通知数 / モード適用総数・男女比 (2022,10/1~1/31)

通知(ジオフェンス)を受け取ったユーザーに対し、モード適用総数(両OS)=CVR:2.84%とCVRは高い(他エリア比較)

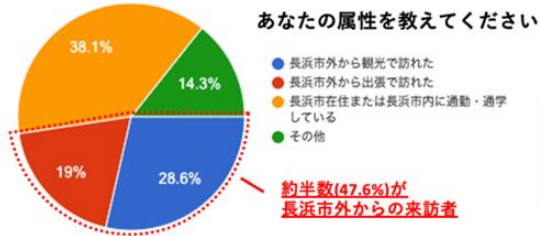


長浜モード通知数 / モード適用総数・男女比 (2022,10/1~1/31)



アンケート集計結果・分析 ① (2022,10/1~1/31) N=42

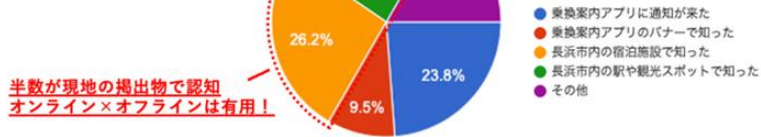
本実証のプロモーションでは、アプリ内通知に加え、市内の店舗や宿泊施設の皆様が協力くださったことで、オンラインとオフラインの両方で接点をつくることができ、市内外のさまざまな方にご利用いただくことができました。



居住地

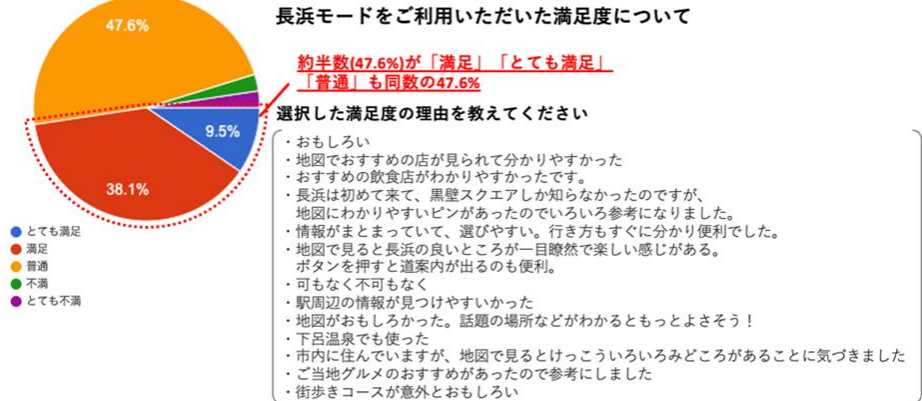
・愛知県 (4人)	・千葉県 (1人)
・東京都 (2人)	・福井県 (1人)
・京都府 (2人)	・大阪府 (1人)
・滋賀県 (2人)	・岐阜県 (1人)
・兵庫県 (2人)	・三重県 (1人)
・神奈川県 (2人)	・広島県 (1人)

「長浜モード」はどのように知りましたか?



アンケート集計結果・分析 ② (2022,10/1~1/31) N=42

長浜モードをご利用いただいた方からは、おおむね好意的且つ期待感のある回答が大半を占め、より使いやすく利便性の高いサービスや機能の検討に役立つ意見もいただくことができました。



改善点としての回答

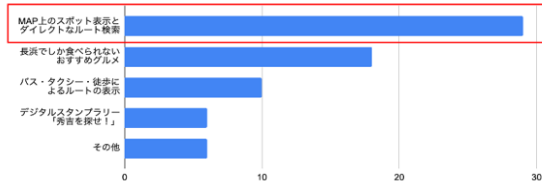
- ・MAPが見づらい、目的地が探せない、現在位置がわからない
- ・データが重たい。
- ・掘り下げ方が弱い

アンケート集計結果・分析 ③ (2022,10/1~1/31) N=42

複数の機能・サービスを実装した中で、MAPからのスポット表示とダイレクトなルート検索・おすすめグルメは高く評価いただいた。記述回答には「レコメンド」などのキーワードもあり、欲しい情報を簡単に便利に得られることの有用性が高いといえる。

機能についてご質問です。

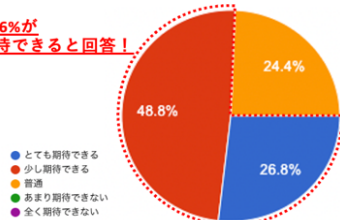
便利または満足と感じられたものは次のうちどれでしょうか。(複数回答可)



長浜モードに「あったらいいな」と思う、機能・サービス・情報

- ・季節の旬の情報があると良さそう
- ・地図上で絞り込みができると見やすい
- ・割引
- ・目的地までのルート検索機能
- ・駐車場の空き情報
- ・グルメはジャンル分けされていると使いやすい
- ・おすすめの表示
- ・レコメンドされると便利だと思います

75.6%が期待できると回答!



長浜モードの今後の機能拡充への期待度を教えてください。

- ・機能が増えていきそう。
- ・実証実験と書いてあったので、これから充実するのかな?とっています。
- ・次に来た時にはスタンプラリーにチャレンジしたい。
- ・観光MaaSの定番として発展してほしい。
- ・アンケートが反映される事を期待して
- ・出張が多いので他の駅周辺でも使えるようになればいいですね
- ・もっと便利になったら観光ぬも役立つ
- ・観光がもっと盛んになるように、いろいろな取組をしていただくとありがたいです。

成果と課題

本実証による成果

今回の実証実験では、移動の目的となる情報と経路検索結果を一元化したことで、観光DX・MaaSのベースができ、周遊促進のために必要な機能・サービスなどを具体化することができた。

通知を受け取ったユーザーの「長浜モード」適用率(CVR)は他エリアでの結果より高い2.87%となり、観光シーズン中の実証だったこともあり、観光へのモチベーションが高い状況で情報をキャッチしたユーザーが多かったのではないかと推察する。また、一人あたりのアプリ利用数は平均16pvで、訪問先を積極的に探していることがうかがえる。実際の移動へとつなげていくためには、季節やユーザーのニーズに応じた企画とのスムーズな連動をさらに検討していくことが必要といえる。

車での来訪者が大半を占めるものの、片道1.5時間程度の京都や大阪、福井などからは鉄道利用も多いため、バスやタクシーを利用したプランが充実することで、訪問先を探している来訪者によりよい長浜観光を提供できるのではないかと考える。

課題

モニターツアーの参加者から、UI/UXについてブラッシュアップが必要との声があった。また、位置情報をONにして利用することに対するメリットについても周知を行い、より便利にご利用いただけるよう努めていきたい。さらに、サービス・機能を提供していくために、収益や継続性といった課題も見えてきたため、サービスや機能の見直や拡充などの検討を行っていく。

今後の展開等

長浜市には多くの観光資源や複数の観光情報サイトがあるため、特集的なコンテンツの切り出し方や周遊を促進するためのさまざまな機能のブラッシュアップを行うことで、より利便性の高い周遊観光のサービス提供につなげていく。今後は、WEBでの情報発信も併せて行うことで、より広い層の流入を見込むことができる。一方で、データ取得の観点から、アプリ利用を促進していく必要もあるため、コンテンツの共通化を行った上で、アプリ・WEBの両方で同時に展開をしていきたい。

さらに、新たな二次交通の導入・連携や、地域内のみならず周辺エリアとの広域連携についても協議を行い、観光の幅を広げていけるような取り組みを模索していく。

▼今後のイメージ

アプリ

動態データの取得が可能



同一コンテンツを2つのIFで共通化

アプリでもWEBでも
同様に利用できる!

基本機能(プラットフォーム)

スポット情報

経路検索
(マルチモーダル)

交通チケット
(デジタル)

各種クーポン
(デジタル)

外部リンク

長浜市MaaS
専用サイト

問合せフォーム

アンケート

各種情報サイト

WEB

ダウンロード不要で利用



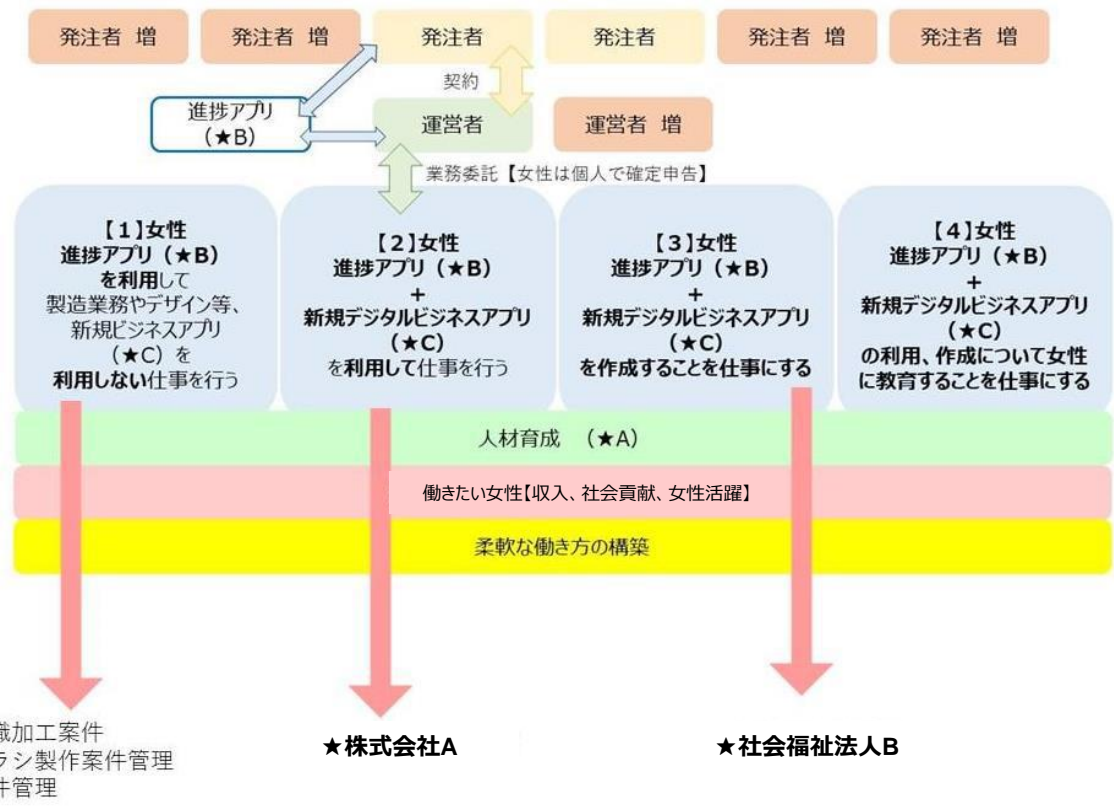
※WEBはモバイルレスポンス対応/アプリは両iOS対応

概要

子育てや家庭の事情を理由に働く時間などに制限があり、働きたくても働けない・経験やスキルを生かせない女性がいる一方、人材不足に悩む中小企業も存在していると推察される。この両者をマッチングする仕組みにローコードシステム開発ツールを活用し、業務の納期や品質を担保する管理アプリケーションと新規デジタルビジネスの構築、デジタル人材の育成を行うことで、長浜市における新しい多様な働き方の拡大を図ることを狙いとする。また、子育て支援団体や地域の団体等における本モデルの活用可能性の検討を通じ、波及を生み出すことを視野に入れて取り組んでいく。

事業の具体的な取組内容

女性のスキルを生かす「新しい働き方」の支援



- 取組① デジタル人材育成（★A）
- 取組② 進捗アプリ（★B）
ローコードシステムを利用したしなやかなシステムの構築
- 取組③ 新規デジタルビジネスアプリ（★C）
ローコードシステムで自主制作し業務拡大

取組を通して、働く時間に制限がある女性を対象に、働く機会の提供等を行い、以下内容についての基礎を創り、地域課題の解決の一步を目指す。

- ① 仕事を提供し、女性が収入を得ることができる
- ② 社会と関わることで社会貢献できる
- ③ 女性の人材育成によって、より地域の女性が活躍できる
- ④ 柔軟で新しい働き方の構築⇒まちの活性化
- ⑤ 地域の企業の人材不足解消への寄与

「地域課題の解決」「人生の質・生活の質の向上」
「長浜で暮らしたい・住み続けたい・選ばれる長浜へ」

実証方法・実証結果

① デジタル人材育成

DXビギナー教室の開催をはじめ、進捗アプリを使用して日々の仕事の進捗管理を行う。

内職やデザインなどの仕事を希望する女性には、登録後、DX・ローコードシステムに関する基本的なシステムの使い方等について、日々繰り返し指導・サポートを行う。

結果、日々の仕事の進捗を、ローコードシステムを使用して、視覚化・情報共有できるようになった。

最初はシステムを利用する女性から、戸惑いや不安の声も多くあったが、丁寧にサポートし根気よく日常的にシステムに触れる機会を増やしていくことにより、ビギナー・プロフェッショナル・マスターまでの人材を育成することができた。

[4段階のデジタル人材を設定]

- ① ビギナー
 - ・近年の世の中の変化、製造業や事務のデジタル化等に関するプチレッスンを行い、デジタル化について理解する
 - ・進捗アプリの基本的な機能や利用手順などの初期教育を受ける
- ② プロフェッショナル
 - ・繰り返し、業務に携わることで習熟し、ノーヒントで業務遂行できる
- ③ マスター
 - ・チェック機能とヒントが付いたアプリを組んで、業務品質を一定程度に維持できる
- ④ マスターリード
 - ・アプリを組むなど、すべての指導ができる



② 進捗アプリ

地域の企業から仕事を受注し、子育て等で時間的に制限のある女性へ仕事を繋げるという仕組みを確立するため業務の効率、正確性の向上と、受注業務の拡大を行うためのシステムを7つ開発した。

常に稼働するシステムは、以下5つのシステム。。

〔加工案件_日報（内職アプリ）〕 〔チラシ製作案件管理〕 〔ワーカー作業実績簿〕 〔ワーカー名簿〕 〔顧客M〕

構築にあたっては、既存の業務の進捗管理の内容を洗い出し、デモアプリを製作し、テストを繰り返し行ない、ブラッシュアップを重ねた。仕事を管理するスタッフ、登録メンバーがシステムを利用し、スマホによる作業の日報報告ができるようになり、進捗を把握できるようになった。〔ワーカー作業実績簿〕では、作業明細の作成まで自動化できた。

③ 新規デジタルビジネスアプリ

新規デジタルビジネスアプリを製作するため、まず事業者へのヒアリングを行った。

日々の業務の中で、どんなことで困っているのか。その困りごとは新規デジタルビジネスアプリを使用することによって解決できるのかなど。

その結果、2社の困りごとを、アプリを通して解決することを目標とした。

1社目：倉庫に保管している資材の棚卸作業ができず、十分な資材管理ができていない
⇒②進捗アプリと③新規デジタルビジネスアプリを利用できる

2社目：備品管理がうまくできておらず、備品等に関するスタッフ同士の共有が難しい
⇒②進捗アプリと③新規デジタルビジネスアプリを利用できる

▼システム作成時の風景



達成目標と目標に対する結果

全体目標

子育て等で働く時間に制限がある女性が少しでも働く機会を得ることができる。

今までの経験やスキルをおもいっきり生かせる機会の提供、人材不足による企業の課題解決の一つになること。

働く時間に制限や家庭の事情があるが、それぞれにあった働き方ができ、子育て・家庭がありながらも仕事にも挑戦できる環境と、枠にとらわれない多様な働き方の構築を行い、長浜の女性がより活躍でき、暮らしている女性からも住み続けたいまち長浜と感じてもらえるようにする。

また、日々デジタルにふれることで、女性のデジタル人材の育成をする。

全体目標に対する結果

働く時間に制限がある女性に対して、様々なカタチで、経験やスキルを生かせる仕事の提供ができた。

仕事の進捗をデジタルで管理することにより、効率よく正確に情報を共有することができ、より多くの仕事の提供に繋がった。

登録している女性が日々デジタルに触れることで、デジタルは難しくない・自分でも出来る・仕事にも使っていけると感じ、積極的にデジタル化に向かっていくことができた。

さらに、アプリの使い方など、「もっとこうしたら見やすい」「こうしていきたい」など主体的に意見も出るようになってきた。

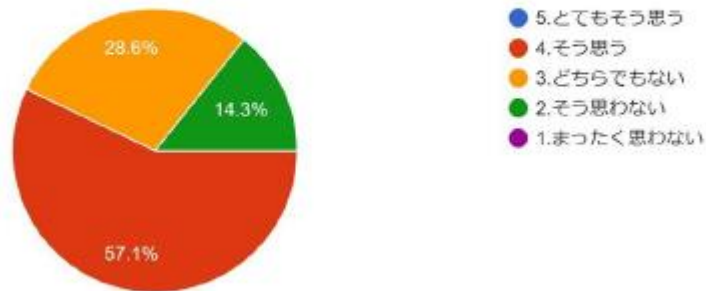
人材不足による企業の課題解決の1つになる部分でも最初の一步の役割を果たすことができた。

■具体的な目標数値		
内容	目標	結果
登録ワーカー者数	長浜の女性 45名	長浜の女性 49名
独自のデジタルキャリア認定者	ビギナー：45名 プロフェッショナル：5名 マスター：1名 マスターリード：0名	ビギナー：49名 プロフェッショナル：3名 マスター：0名 マスターリード：0名
稼働率	100%	86% (42名)
発注元 ※2	長浜の企業・団体等 23社	長浜の企業・団体 25社 長浜市外の企業・団体 11社 ■受注内容 ・ラベル入力 ・電子配線加工 ・服飾加工 ・チラシデザイン ・HP作成 ・写真撮影 ・動画編集 ・SNS投稿 ・イラスト ・広報誌制作 ・パンフレット制作 ・商品パッケージ制作 ・アプリ制作 等
新規事務サポート業務受注 ※2	新規事務サポート業務 2件	2件 株式会社A 社会福祉法人B
専門スタッフ、登録者、企業 アンケートによる QOL 向上	自分の仕事がやり易くなった。 引継ぎがしやすくなった。自分の仕事をコントロール出来ている。 繁忙が緩和された。孤独感が減った。などを調査し、半数以上向上。	・登録者 ・企業 アンケートは下記に掲載
管理業務で紙の消費量削減	案件分の紙ファイル量の半減	消費量は 3分の1 程度になった。
スタッフからの問合せ数、質の変化	簡単な問合せ・確認が減る。「こうして良いですか?」と言った品質への問合せが増える。品質の問合せが全体の20%以上	アプリ利用について、質問は出でなくなった。かわりに、「もっとこうしたい。」などの提案が出てくるようになった。
アプリ内でのストック情報数	全体のギガ数、レコード増加率	5本のアプリが稼働中。 レコード数は、多いもので1日3.6件ずつ増加している。 加工案件_日報の写真付きレポートは、1日3件のレコード増加で、763件、約1GBの画像データを保管できている。

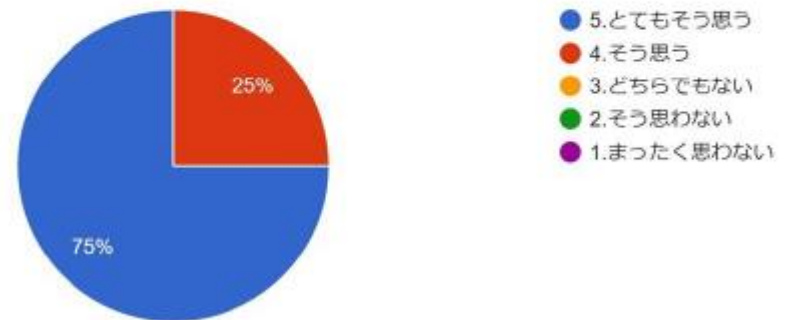
ビジネスモデル、システム利用	<p>自社以外の団体がこのビジネスモデルとシステムの運用に挑戦。 ビジネスモデルを利用して、新たに子育て支援団体や地域づくり団体等が運営者になることや、団体の活動を継続していくために、</p> <p>【1】女性～【4】女性、いずれかの人材となり、収入を得られるようにする。</p>	<p>システムについて、2社が利用。 ビジネスモデルについては運用されなかったが、【1】【2】女性となり、収入を得られるようになった。</p> <p>子育て支援団体のメンバーが活動以外から収入を得られたことで、家族の理解が得られ活動を継続できるようになった。</p>
----------------	--	---

登録ワーカーへアンケート結果 (49人中42人が回答)

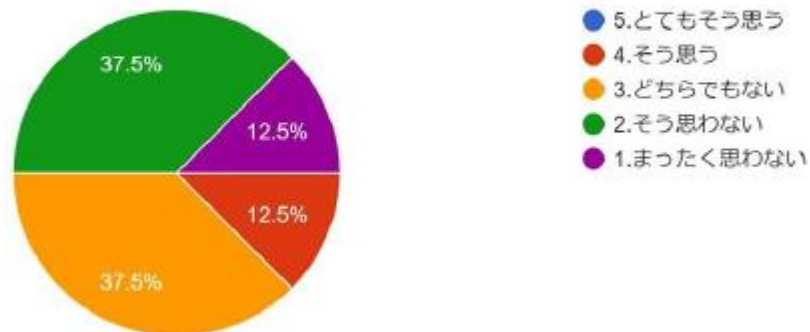
以前と比べて、作業量が分かるようになり、働く時間が調整できていますか？



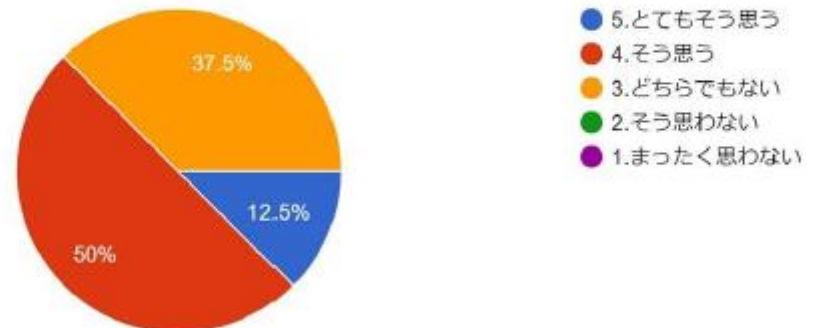
作業の内容を把握し、働く場所を柔軟に選んでいますか。(持ち帰りやLOCOの作業スペースなど必要に応じて選んでいますか？)



デジタル(パソコンやスマホ)での作業実績の入力は難しいと感じますか。

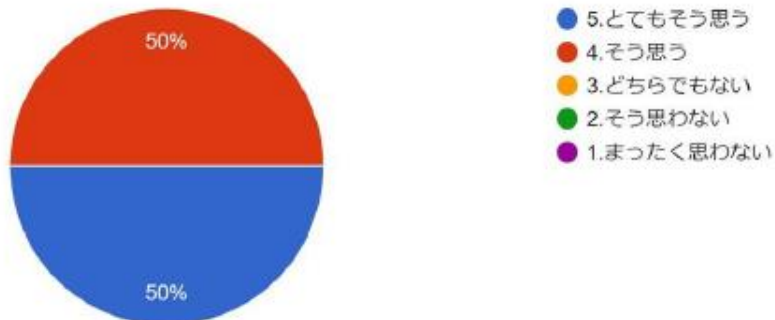


一つの業務の進捗状況などが見えて、メンバーで作業しているというチームとしてのやりがいを感じますか。

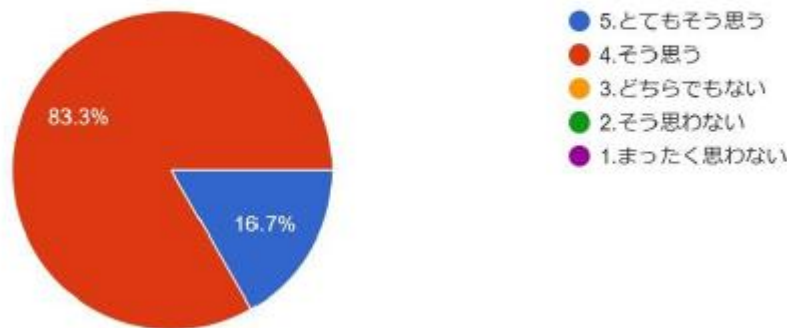


登録ワーカーへアンケート結果 (49人中42人が回答)

仕事をする中で、家以外の居場所の確保・社会との繋がりなどを感じることができていますか。



この取り組みを通じて生活の質の向上につながったと感じますか。



【ローコードシステムでの入力などデジタルを使ってみての感想】

- 操作はそんなに難しいので、繰り返し使えば自分で入力も出来ると思います。使い始めなので、不慣れで分からないこともありますが、今後もよろしくお願いします。
- 慣れないうちは使い方がなかなか把握出来ずにいましたが、何度もやっていくうちに出来るようになりました。スマホでも入力できるのは、ありがたいです。
- 家からでも入力できるようになった点はとてもありがたいです。反対に、以前のスプレッドのリストでは、全体の進捗と残りの件数を視覚的に把握でき、自分ももっと頑張ろうと意欲upにつながっていましたが、今はローコードシステムの一覧でズラツと出てくるので、そこはなかなか把握しにくいなあと感じています。
- 操作方法や入力の仕方を今は随時更新していているので、最新がどうだったかわからない時があります。最終的にマニュアルのようなものができればなあと思います。
- みんなでああでもない、こうでもないと頭を悩ませ意見を出し合い、それが形になってどなたかのお役に立つお仕事というのは小さい関わりであっても元気が出るし有り難いなと思いました。感謝です！

成果と課題

成果

取り組みを通して、働く時間に制限がある女性を対象に働く機会の提供を行うことができた。

- ①仕事を提供し、女性が収入を得ることができた。
- ②社会と関わることで社会貢献でき、女性自身も実感することができた。
- ③女性の人材育成によってより地域の女性が活躍できた。
- ④柔軟で新しい働き方のひとつの土台が創出できた。今後まちの活性化に繋がっていくとよい。
- ⑤地域の企業の人材不足解消に向けた第一歩を踏み出した。

アプリを使用し、業務の効率、正確性の向上と、受注業務の拡大についても一定の成果がある。

業務の効率向上により、一人ひとりが受注できる業務拡大ができたこと。

業務を行う中で女性の寄り添うヒアリング力がとても丁寧でスキルが高いことも分かった。

また人件費がほぼ出ていないため家族の理解が得られにくく、活動を続けていけるか大きな不安を抱えていた女性たちは、子育て支援団体の活動を継続していくために、当事業に関わり収入を得られるようになり、支援団体活動と仕事の両立を行い、家庭への負担が減り、支援活動を継続できるようになった。

全体を通して、デジタル技術を活用した新しい働き方の一歩を創出できた。

課題

①新規デジタルビジネスアプリを制作することを仕事にする

②新規デジタルビジネスアプリの利用、制作について女性に教育できる については達成することができなかった。①については、サポートを行うことでアプリを制作できるようになったが、最初から全てをワーカーだけで行うことは難しかった。

大きな理由としては、制作するためには、システムについての組立の仕方の理解だけでなく、発注元のヒアリングからシステムを創るまでの過程での業務フロー図の作成について、別の高いスキルが必要だったことがある。

業務フロー図は、普段、ワーカーさんたちの家庭を含めた生活で意識したことがなく、図式化できないことが要因と考えている。いわゆる家事等を、ステップに分けて作業として進めるように考えることはほとんどなく、意識せずに連続的にマルチタスク的にこなしているため、ステップを区切り、シングルタスクとして切り取るという訓練環境ではないことが多い。

今後ビジネスアプリを一からサポートなしで作成できる人材を育てていくには時間をかけて、様々な視点の研修が必要であると感じた。

今後の展開等

女性のスキル、デジタル技術を活用した新しい働き方の創出については、継続して取り組みを続ける。
時間的に制限や、家庭の環境等の外的要因によって、働く機会が少ない女性に、仕事を通して、下記の成果をだし続けていきたい。

- 1 仕事を通して収入を継続的に得ることができる。
- 2 社会と関わることで女性の自己肯定感が上がり、さらに社会貢献できる。
- 3 長浜の女性が地域で活躍する。
- 4 地域の企業と連携を深め、人材不足の解消の1つとなる。
- 5 柔軟で新しい働き方の確立から、今後の長浜が活性化する。

今回挑戦をさせていただいた、ローコードシステムの教育については、初期教育のローコードシステムの基本操作の説明指導ができるプロフェッショナルの数を増やして、依頼された簡単な機能をアプリとして組み込むことができるようなマスターを育成することで、地域のデジタル化の裾野を広げ、厚くする。具体的には、ローコードシステムを扱っている他社と協働して、地域内のデジタル化を推進する。その中でLOCOの役割として、初期教育のローコードシステムの基本操作の説明指導を担う。これにより、他社の業務アプリ開発の時間を増やし、地域内のデジタル化速度の向上に寄与する。結果として地域のデジタル力が上がり、他の地域よりデジタル優位に立つことで、地域経済の優位性を構築出来たらと思う。

また女性のスキル、デジタル技術といってもとても幅が広い。
今後は、ニーズの高い、webデザイン、制作やその他のデザイン業務、またシニアさん向けの携帯やSNSツールの教室業務などの仕事に必要なスキルを学ぶ機会を、時間をかけて丁寧に、そして継続的に行うべきである。
さらに、スキルを学ぶだけで終わらぬよう、しっかりと仕事に結びつくような、実践的な研修、仕事へのサポートも大切な取組になっていくと思う。

概要

多くの自治体では、災害時における被害や対応状況等の情報収集は、電話・FAX等の内容をホワイトボード等へ書き出すといった対応が行われている。今回の取組では、クラウド型災害情報共有システムを活用した災害対応時における各種情報のデジタル化を行い、市内の状況をリアルタイムに情報収集・集約することで、災害対応における体制の強化を図る。これにより、災害対応やパトロール等、業務の効率化と高度化を支援します。また、システムを活用した災害対応シミュレーションや訓練を実施し、システムの有効性等を検証する。

事業の具体的な取組内容・実証方法

当社災害情報共有システム（商用サイト）を活用した防災訓練の実施と評価

Plan

- ① 地域防災計画に基づく各災害対応業務体制等の現状確認
- ② 貴市体制にフィットするシステム運用案の提示
- ③ 想定災害の設定とシナリオ作成・庁内調整
- ④ システムマスター準備・設定

Do

総合防災訓練等でのシステム利用

- ① 職員による参集、被害報告、ホワイトボード機能による情報共有・チャットによる意思疎通
- ② 集約情報を活用した災害報告

Check

運用上の課題や改善点の抽出、意見交換会

Action

システム面／運用面での各改善を実施し、新業務フローの定着を目指す



実施結果

総合防災訓練時、原子力防災訓練時において、災害対策本部や地域班などを想定して、システム機能の有効性等を検証した。

- 被害状況の報告／確認
- 対応指示／対応指示内でのチャット
- パトロール
- ホワイトボード機能を活用した関係者への情報共有
- 避難所の開設準備／避難所状況の報告
- ライフライン状況の確認

達成目標と目標に対する結果

<定性的な視点>

- ①災害対応にあたる各部局で活用できる情報共有基盤の整備
⇒整備完了
- ②被害情報の可視化（情報一元化／優先度の視覚化により判断を支援）
⇒2つの訓練にてホワイトボード機能活用での情報共有等、各日程の動向の可視化と共有の実施を確認（1対Nの同時共有等）
- ③報告・取りまとめ作業及び情報共有の高度化
⇒入力済被害報告の統計集約を確認

<定量的な視点>

被害情報収集から集約迄の負荷軽減（約10人月）及びコストの削減（約3,000千円のコスト削減）

⇒被害情報収集から集約迄の負荷軽減やコスト削減まで至らなかったものの、基本的な操作訓練や職員の創意工夫により、平時・実災害時ともに災害把握の時間短縮等、効果を上げられる可能性を確認

成果と課題

成果：

これまでは紙ベースで対応していた災害対応用情報共有基盤のデジタル化を実現
訓練利用により一定のシステム評価と課題の抽出を行うことができた

課題：

本パッケージ（DMaCS=DisasterManagement & Communication System）のうち、
市で利用している複数のコミュニケーションツールとの棲み分けの明確化及び
災害管理機能部分（被害とりまとめ・避難所開閉時の運用支援等）で従来の業務フローとの調整・改善が必要

今後の展開等

- ①本システムの利用領域の明確化と最適な業務フローの提案
- ②災害情報共有基盤として出水期（雨季等）の延長利用による効果測定の継続
- ③最新の平常時・災害時利用例のご紹介